

## スポーツ東京案内「指導者派遣事業」 ～相撲教室～

令和4年11月上旬、都内のある保育園に指導者派遣を行いました。この日の指導内容は、相撲です。派遣した3名の指導者は東京都相撲連盟に所属し、このうち2名は、インターハイの東京代表や大会で優勝歴のある現役のアマチュア相撲選手です。以下、教室の様子をご紹介します。

教室の冒頭、実際に廻しをつけた指導者が登場し、園児たちはその大きな姿に驚いた様子でした。まず、四股と股割りの実演を行いました。四股を踏む指導者たちの力強さや股割りで足が180度に開く姿に子どもたちも圧倒されていました。次に指導者同士の取り組みの実演が行われました。激しいぶつかり合いや相手を投げ飛ばす迫力に園児たちからは歓声があがりました。

続いて、ホールに設置された土俵で園児たちが相撲の基本動作を体験しました。土俵に上がり、しゃがんだまま柏手を打って両手を横に広げる「塵を切る」という作法や、四股の踏み方を指導者たちから習いました。一生懸命に真似をしながら四股を踏む園児たちの姿に、指導者たちも感心していました。



四股を踏む様子



相撲を取る様子

さて、いよいよ実際に相撲を取ります。取り組み前の「塵を切る」作法を行い、園児たちは5人1組になって指導者に立ち向かいます。最初はその体の大きさに圧倒され、土俵の上で逃げ回っていましたが、保育園の先生に促されるとみんなと一緒に向かっていき、一生懸命、土俵から押し出そうとしました。ついには全員で押し出し、園児たちからは笑顔で「やったー！」と歓声があがりました。

相撲体験後の質問コーナーで「その凄い力を何に使うのですか。」という子供たちからの質問に対し、現役のアマチュア相撲選手は「相撲を通してみんなを笑顔にするためです！」と答えました。誇りをもって相撲に取り組む選手たちの真摯な姿勢に保育園の先生も感心し、子供たちの目も輝いて見えました。

最初は緊張した様子の園児たちでしたが、最後には指導者たちに大きな声で「ありがとうございました！」と挨拶し、全員が笑顔でこの日の相撲教室が終わりました。

今回の教室をきっかけに、園児たちが相撲の楽しさやスポーツを通して仲間と力をあわせる素晴らしさを知り、これからも積極的にスポーツに親しんでくれたら嬉しく思います。